

います。

『eスポーツ』と言うと単なるゲームと考える方も多いと思いますが、経済活性化への活用以外にも、医療・福祉・教育・地域活性化等の分野に活用することで、地域創生に結びつけていく試みが全国各地に拡大しています。活用事例の一つとして、大会形式の『eスポーツイベント』があり、最も成功しているのが富山県の“富山ゲームズデー”です。富山県と富山テレビが主催者となり、高岡市と魚津市の商工会議所や観光協会が後援し、地元を中心とした26の企業・ブランドが協賛するなど、地元のゲームコミュニティと自治体、地元企業が協力して行うイベントにまで成長しています。この他にも、各地で様々な『eスポーツイベント』が開催されたり、『eスポーツ施設』、『eスポーツカフェ』などもオープンしています。近隣では、勝浦市の勝浦中央商店会が中心となり、『eスポーツイベント』を開催し、経済活性化に取り組んでいます。

また、福祉関係での取り組みとしては、熊本県美里町が高齢者の認知症予防を目的とした『eスポでいい里づくり』事業を実施したり、神戸市ではNTT西日本などと連携し、地域におけるコミュニケーションの活性化と健康増進を目指した高齢者向け『eスポーツ』の実証事業を行っています。

『eスポーツ』は直接的な接触を避けられるため、新型コロナの感染予防を行いながらできる健康増進プログラムとして注目を浴びており、美里町や神戸市のような高齢者向け『eスポーツ』事業を含め、今後、ますます多くの自治体において、様々な取り組みが

進められていくことと思います。

館山市においても、介護や認知症予防等の各種事業に試験的な導入を検討するとともに、他の自治体等における動向を積極的に調査・研究し、『eスポーツ』の活用による地域経済の活性化や市民福祉の向上の取り組みを進めるよう要望しました。

行政
一般質問
3

質問・回答要旨・所感



子育て支援の充実について

Q1) 子ども医療費の助成範囲を高校3年生まで拡大した場合、通院・入院それぞれどれくらいの予算が必要となるのか？

A1) 現在、高校3年生までを助成対象としている県内23市町のうち、入院及び通院の双方を助成対象として事業を実施している9市の令和2年度の実績額をもとに試算したところ、助成範囲を高校3年生まで拡大した場合に必要な費用は入院と通院を合算した額で900万円程度となった。入院・通院それぞれの内訳についての試算は困難であるが、現在、館山市で実施している子ども医療費助成事業のうち、中学生にかかる助成費における入院の割合が10%ほどであることから、高校生の内訳も同程度になるものと考えている。